

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1967
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.60, No.7 (1967. 7)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19670701--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1967年 7月号

論 説

- 企業における専門職業者.....青 沼 吉 松 1
 ——中間層の問題——
- 日本資本主義の再生産構造分析試論 II井 村 喜 代 子 25
 ——昭和30年以降の拡大再生産過程(4)——
- 経済政策と国際協力.....大 山 道 広 76
- わが国主要寡占産業における競争と独占(二).....植 草 益 111
 ——部門内諸資本の生産規模=費用格差構成——

書 評

- 矢島悦太郎著『社会政策社会理論研究』.....飯 田 鼎 148
- 宮 鍋 幟著『ソヴェト農産物価格論』.....平 野 絢 子 152

新刊紹介

60 卷  号

昭和四十二年七月十一日
422625
年 7 210
月 1 1324
日 日 日
免因第三種郵便物認可
行特(毎)月 1 日 九〇三行

昭和四十二年六月十一日
422625
年 6 210
月 1 1324
日 日 日
免因第三種郵便物認可
行特(毎)月 1 日 九〇三行

三田学会雑誌

昭和四十二年六月号

定価 金二〇〇円(送料別)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 60, No. 6

June, 1967

CONTENTS

Articles

- On the "Subjectivity" in Max WeberS. Tomita 1
- American Capitalism from the Viewpoint
 of Comparative Economic HistoryK. Nakamura 12
- Tax Policy for Conversion of ResourcesS. Furuta 26
 ——The Role of Land Tax in the Period of Take-off——

Notes

- A Comment on J. R. Hicks' Theory
 of Trade CycleT. Ichitishi 49
- On General Equilibrium Model
 of Capital FormationT. Miyao 56

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)
Editorial Communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai
Keio University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 200 yen

新刊紹介

- 石渡貞雄著『現代資本論 I —方法論的考察—』…飯 田 鼎 158
加藤一郎 編 『日本農政の展開過程』……………高 山 隆 三 159
阪本楠彦
原 覚天著『世界経済の変革と発展』……………深 海 博 明 160

企業における専門職業者

—中間層の問題—

一 産業の専門職業化と中間層の登場

マルクス主義の頂点は、階級問題に求められる。資本主義の発展にもなつて、資本家階級と労働者階級という両極的分化はますますはつきりとしてきて、階級対立の激化をまつて、無階級的社会が出現するというのが、その古典的見解での結論である。この過程において、中間階級は次第に分解してしまふとされる。ところが、現実には、資本主義の発展にもかかわらず、古い中間階級たる小規模な自営業者が根強く残っているだけでなく、新しいそれが成長してきている。とくに、新中間階級の問題を考慮に入れると、階級論は古典的形態にとどまるのはむしろかしくなる。

産業の高度化につれて、企業規模が拡大し、生産の機械化が進行する。かくて、大組織を形成・管理し、機械装置を駆使するために、特別な知識・訓練が必要となる。このようにして、産業が専門職業化 (Professionalization) される。産業の高度化によって、現場労働者の熟練は組織と機械のなかに吸収されて、陳腐なものになつてしまつたが、これに代わつて登場するのが、専門職業者たる被傭の経営者・技師である。現代の企業活動の主導権はかれらの手に握られている。生産手段から